

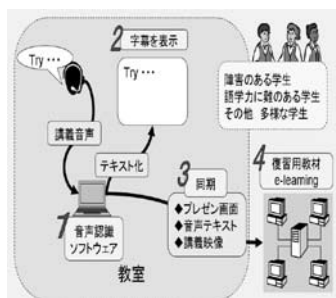
ミッション2: アクセシビリティ支援方法開発

- 音声認識技術を活用した教育支援
- 教授法の工夫
- 最適な評価方法
- 国際交流・共同研究

17

18

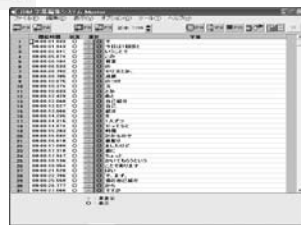
音声認識技術活用による教育支援



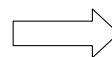
ユニバーサルな教育支援

聴覚に障害のある学生
筆記が困難な学生
学習障害のある学生
語学力に難のある学生
全ての学生の復習用教材

セントメアリーズ大学
日本IBM社と
連携



音声認識＋編集



音声字幕つきプレゼン
テーションをWEB配信

ミッション3. アクセシビリティ教育・人材育成

- 支援者育成のための授業(概論・実習)
- 講習会、研修会の開催
- アクセシビリティリーダー育成プログラム
- アクセシビリティセンター・インターンシップ

19

課題: 支援者の確保

- 一般的な方法: 学生ボランティアの募集
(有償・無償)

問題点:

- 必要数の確保
- 支援の質の保障
- ボランティアに対する心理的負担感
- 一部の人間(事務職員; 学生達; 授業担当
教員)への負担の集中
- 一過性に終わって、持続可能なシステムの
構築ができにくい。

支援者育成のための授業開講

障害者支援 ボランティア概論

- 障害の理解と支援方法などについて
- 専門教員がオムニバス形式で講義

障害学生就学支援 ボランティア実習A,B

- 支援活動の実践
ノートテイク、ノート作成、音声字幕編集、点訳、
対面朗読、ビデオ字幕作成、ガイドヘルプ、バリア
フリーマップ作成、図書館補助など

授業として支援を行う意義

障害のある学生

- ・質の高い支援が恒常的に得られる。
- ・問題が発生した時、伝えやすい。

支援する学生

- ・単位修得が可能、技術習得が可能。
- ・初心者でも参加しやすい。
- ・問題点や悩みを相談できる。

大 学

- ・支援方法の指導が確実。
- ・学生、教職員一体で質の向上。
- ・教育的効果がある。
- ・人数が集まりやすい。